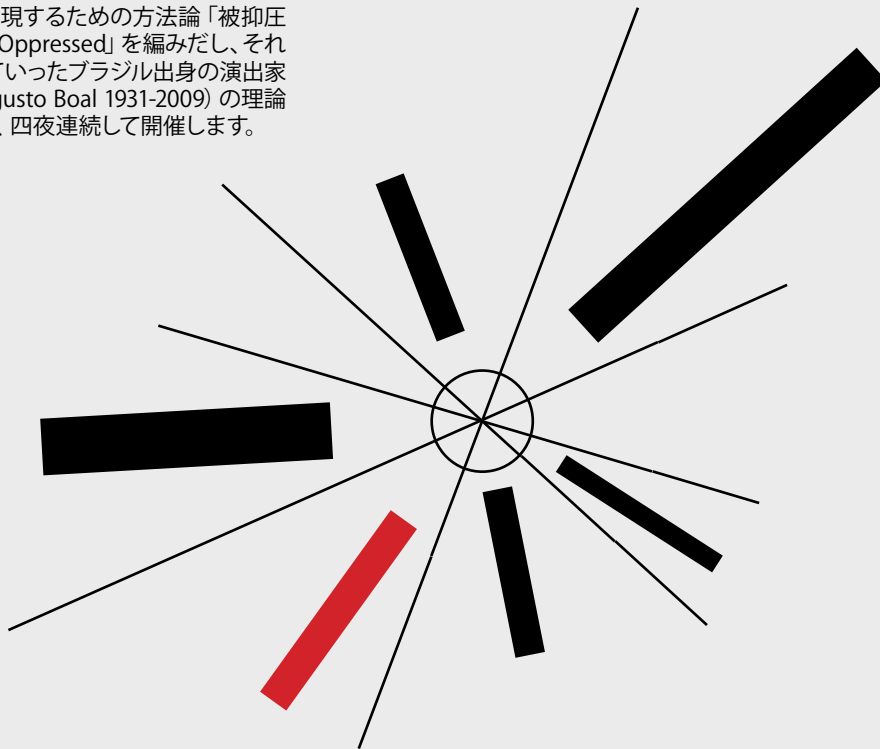


連続講座 アウグスト・ボアールと「被抑圧者の演劇」

社会においてさまざまな抑圧を被る人間が、演劇を通じて自らの〈声〉を発見し表現するための方法論「被抑圧者の演劇 Theatre of the Oppressed」を編みだし、それを全世界にむけて実践していったブラジル出身の演出家アウグスト・ボアール (Augusto Boal 1931-2009) の理論とメソッドに関する講座を、四夜連続して開催します。



すべて参加費無料・予約不要

今回の研究会にあわせて翻訳出版されるボアールの著書『俳優と俳優のためのゲーム集(仮)』(れんが書房新社・刊)に収められた理論とメソッドを、英語版の翻訳者でもある演出家ジャクソン氏が「被抑圧者の演劇」の実践家としての視点から読み解いていきます。

演出家ジャクソン氏が、イギリスで主宰する劇団カードボード・シティズンズの活動を例にとりながら「被抑圧者の演劇」の現場を紹介し、今回は特別に、ジャクソン氏が現場で使うメソッドの数々を、聴講者も体験できるワークショップ形式で紹介し、

全世界に普及したボアールの代表的メソッドである「フォーラム・シアター」。体系化されたその方法から「イメージ・シアター」というモジュールを取りあげ、「被抑圧者の演劇」の原理や機能とはどのように働くかをワークショップ形式で検証します。

前3日間の成果をうけて、ボアールの理論や実践の意味を再検証します。またボアールが残した演劇思想や方法論について、今後の日本での活用法を考えます。

アウグスト・ボアール (Augusto Boal 1931-2009)

演出家、作家、政治家。祖国ブラジルを中心に南米において民衆の声を代弁するさまざまな演劇の方法論を「被抑圧者の演劇」として体系化。71年にヨーロッパへ亡命し、全世界で「被抑圧者の演劇」の方法論を実践。以降、「欲望の虹」「頭のなかの警官」など新たなメソッドや理論を展開。現在「被抑圧者の演劇センター」が世界各地に設立されて、2-3年ごとに国際会議が開催される。著書に『被抑圧者の演劇』(翻訳/里見実、佐伯隆幸、三橋修、晶文社、1984年)、ほか多数。

第1夜 2011年11月15日(火) 18時30分~21時

レクチャー 「被抑圧者の演劇」の理論と方法

講師 エイドリアン・ジャクソン(英語・逐次通訳つき)

会場 早稲田大学早稲田キャンパス 26号館(大隈タワー) 302会議室

第2夜 2011年11月16日(水) 18時~21時

レクチャー・ワークショップ イギリスにおける「被抑圧者の演劇」の実践

講師 エイドリアン・ジャクソン(英語・逐次通訳つき)

会場 早稲田大学早稲田キャンパス 26号館(大隈タワー) 302会議室

第3夜 2011年11月17日(木) 18時~21時

ワークショップ・プレゼンテーション ボアールの「イメージ・シアター」

進行役 演劇デザインギルドのメンバー、里見実

会場 早稲田大学早稲田キャンパス 26号館(大隈タワー) 302会議室

第4夜 2011年11月18日(金) 18時~21時

シンポジウム 総括討論「ボアールの演劇思想と実践」

パネリスト エイドリアン・ジャクソン、演劇デザインギルドのメンバーほか

司会 松井憲太郎(グローバルCOE客員講師)

会場 早稲田大学早稲田キャンパス 6号館318(演劇博物館レクチャールーム)

エイドリアン・ジャクソン (Adrian Jackson)

演出家。イギリス・ロンドン在住。元/ホームレス、難民/申請者らによる劇団カードボード・シティズンズ(Cardboard Citizens)を1992年に創設、その芸術監督を務め、英国国立オペラ、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーなどでも演出作品を上演している。アウグスト・ボアールの重要な協力者であった彼は英語圏におけるボアールの翻訳者でもあり、フォーラム・シアター、「被抑圧者の演劇」の実践者・教育者としても広く知られる。